

1. 令和5年度事業内容等

No.	40	事業名	区民まつりの開催	区分	継続
担当課		地域力推進室	関係部署（所）	—	
趣 旨		西・中央・東地区の公園を巡回して開催し、地域の歴史・文化の発信やスポーツの振興など、地域の特色に合わせた企画を充実させることで、区民のふれあいや交流の推進と中川区に対する誇りや愛着の醸成を図る。			
事業予定		・ 区民まつりの開催 <u>感染対策</u> [実施時期] 令和5年10月29日（日） [場 所] 荒子公園 [内 容] ①地域特色を活かした事業 前田利家公ゆかりの地である荒子地区の特色を活かす事業として、戦国時代をテーマにした企画等を実施する。 ②ふれあい交流事業 区民が中心となって活動するグループ等から出演者を募集するステージイベントのほか、世代を超えて楽しむことができる体験ブースや各種ゲーム、模擬店などを実施する。			
計画目標		区民まつりの開催 1回			

2. 令和4年度の実施結果

（評価：☆☆☆）

計画目標	区民まつりの開催 1回
実施内容	10月23日（日）に、8年振りとなる富田公園での区民まつりを開催した。地域特色を活かした事業として名古屋市指定文化財である伝統的祭事「戸田祭り」から「からくり人形」をそろえ、からくりの実演を行ったほか、農業が盛んであるという特性を活かした農業関係のクイズラリー等を実施し、まつりには約39,000人が来場した。
実績	区民まつりの開催 1回
総括	区民まつりとしては3年振りに現地で開催でき、3年前を上回る多くの区民に来場いただいた。来場者へのアンケートにおいても「とても良かった」又は「良かった」との回答が95%を超え、満足度も高かった。 会場設営経費等が高騰しているため、今後の開催にあたっては、ブース出展の形態の見直しや、更なる協賛金の確保等を進める必要がある。

1. 令和5年度事業内容等

No.	41	事業名	スポーツ・生涯学習の推進	区分	継続
担当課		地域力推進室	関係部署（所）	—	
趣 旨		スポーツ推進委員、体育協会、各種スポーツ関係団体と協力したスポーツ大会や美術展などの文化活動を通じて、心身ともに健康で明るい生活を築き、広く区民に参加していただくことにより、区民のふれあいと交流の推進を図る。			
事業予定		1 区スポーツ祭の開催 <u>感染対策</u> [実施時期] 令和5年4月～令和6年3月 [場 所] 市内各種スポーツ施設 [内 容] 学区対抗で各種スポーツ大会の開催 感染状況に応じて観戦者の制限、来賓の縮小等により参加者総数の縮小を図るとともに、大会開催時間の短縮を図り開催する。 2 区民美術展 <u>感染対策</u> [実施時期] 令和5年10月 [場 所] 区役所講堂 [内 容] 区民の制作した美術作品の展示と入選作の選考 区民が身近で実際に美術作品に接する機会とするために、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底して開催する。			
計画目標		・スポーツ大会の開催 14回 ・区民美術展の開催 1回			

2. 令和4年度の実施結果

（評価：☆☆☆）

計画目標	・スポーツ大会の開催 15回 ・区民美術展の開催 1回
実施内容	1 スポーツ大会の開催 <u>感染対策</u> [実施時期] 令和4年4月～令和5年3月 [場 所] 市内各種スポーツ施設 [内 容] スポーツ大会の開催 参加者は事前申込制とし、当日記入したチェックシートを会場に持参する等の新型コロナウイルス感染対策をとり行った。また、式典・来賓・参加者以外の観客は可能な限り縮小し、密をさけ、大会の時間を短縮した。 2 区民美術展の開催 <u>感染対策</u> [実施時期] 令和4年10月 [場 所] 区役所講堂 [内 容] 区民の制作した美術作品の展示と入選作の選考 基本的な感染対策を徹底して選考会・展示を開催した。また、デジタルアート部門を新設し、区民美術展への幅広い年代からの出展につなげることができた。
実績	・スポーツ大会の開催 14回 ・区民美術展の開催 1回
総括	区主催スポーツ大会を参加人数の削減や手指の消毒など新型コロナウイルス感染対策を徹底したうえで14回開催することができた。大会会場で一緒に競技を行い交流することでスポーツを通じて区民のふれあいと交流を推進することができるため、コロナ禍においても安心安全に大会を開催することが課題である。令和5年度についても新型コロナウイルス感染状況に対応した感染対策を徹底したうえで大会を開催する必要がある。 区民美術展では令和4年度より新設したデジタルアート部門に10代から17点・80代から1点の出品があり、幅広い年代の出品につなげることができたが、来場者アンケート回答の約半数が70代以上であったため、幅広い年代に来場してもらえるようにしていく必要がある。

1. 令和5年度事業内容

【区の特性に応じたまちづくり事業】

No.	42	事業名	川と歴史を人がつなぐまちづくりプロジェクト ～子どもたちが創る未来の中川運河づくり～		区分	新規
担当課	地域力推進室		関係部署（所）	住宅都市局、上下水道局		
趣 旨	中川運河が地域住民にとって身近な憩いの水辺空間となることを目指し、子どもたちが中川運河に集い、将来の姿を思い描く機会を設け、子どもの想いを未来の中川運河づくりにつなげる。					
事業予定	・ 中川運河サマープログラムの実施 感染対策 子どもたちが参加して、食べられる植物を植えた緑の回廊を設置し、中川運河の歴史や未来の構想について学ぶことができるパネル展示を行う。併せて、水辺空間の活用を実験的に体験できる場や、住民目線で運河の将来像・理想像について考える場を設け、子どもたちの意見としてまとめる。					
計画目標	中川運河サマープログラムの実施 1回					

1. 令和5年度事業内容等

【区の特性に応じたまちづくり事業】

No.	43	事業名	川と歴史を人がつなぐまちづくりプロジェクト ～戸田の伝統文化がつなぐまちづくり～	区分	継続
担当課	支所区民生活課	関係部署（所）	—		
趣 旨	戸田の歴史や産業といった特色を魅力として発信するとともに、4年に一度の大祭を行う「戸田祭り」の歴史と魅力を子どもたちはじめ次の世代への伝承を促進することにより、区への愛着を育み、コミュニティ力の向上につなげる。				
事業予定	1 鉄道会社とタイアップしたウォーキングイベントの実施 感染対策 令和4年度に設置した「戸田祭り魅力発信ボード」を活用し、鉄道事業会社とタイアップして、戸田の伝統文化を紹介するウォーキングイベントを実施する。 [実施時期]未定 2 富田地区の魅力を紹介する展示コーナーの新設 鎌倉時代に作成された荘園絵図の複製品や千音寺遺跡からの出土品、尾張名所図会で紹介された史跡など、地元の歴史や伝統を紹介する資料の常設展示コーナーを支所内に設置する。				
計画目標	・ウォーキングイベントの実施 1回 ・展示コーナーの新設				

2. 令和4年度の実施結果

（評価：☆☆）

計画目標	・郷土学習での活用 9校（富田支所管内の小学校） ・イベント実施 1回
実施内容	1 戸田祭り伝承の記録 10月に開催された大祭の様様や地元の語り部への取材など戸田祭りの歴史と魅力を記録した映像を作成した。 2 戸田祭り魅力発信ボードの設置 5つの山車が格納されている神社に、戸田祭りについて知ることができる案内板を設置し、案内板の二次元コードからからの動画を見ることができるようにした。 3 戸田のまちの魅力発信イベント 設置した案内板を巡り、戸田のまちの魅力を発見するまち歩きイベントを3月12日に開催し、300名が参加した。また、戸田のまちの魅力発信マップを作成した。
実績	・郷土学習での活用 0校 ・イベント実施 1回
総括	戸田祭り保存会の協力により、充実した記録映像や魅力発信ボードを完成させることができた。年度末の完成となったため、活用実績は0校だが、コミュニティ力の向上につなげていくためには、子どもを中心に一人でも多くの住民に映像等を見てもらえるよう、今後も活用を進めていく必要がある。また、魅力発信ボードについてもウォーキングイベントでの活用等を図る必要がある。

1. 令和5年度事業内容等

No.	44	事業名	川を生かしたまちづくり	区分	拡充
担当課	地域力推進室	関係部署（所）	土木事務所、環境事業所		
趣 旨	区名の由来となった中川運河をはじめ、7つの河川が流れる豊かな水辺環境に親しみを持ち、興味や関心を深めるきっかけを提供し、魅力を発見・発信するとともに、区民のふれあいや交流の機会とする。				
事業予定	1 庄内川多世代ふれあい事業 <u>感染対策</u> 愛知県ボート協会との協働で水辺に親しみ、庄内川の魅力を知るボート部の学生との交流により、庄内川に関心や興味を深めることを目的としたボート教室を実施する。 2 戸田川地域ふれあい事業 <u>感染対策</u> 戸田川上流域にて地域団体等と協働し、地域住民や企業などの参加による大清掃を実施する。 3 新川の魅力発見 <u>感染対策</u> 【新規】 新川及びその流域の魅力発見を目指し、まち歩き等の散策イベントを実施する。				
計画目標	庄内川、戸田川及び新川の魅力発信事業の実施 各1回				

2. 令和4年度の実施結果

（評価：☆☆）

計画目標	中川運河、庄内川、戸田川及び荒子川の魅力発信事業の実施 各1回
実施内容	1 中川運河の魅力発見 船上と地上の双方からの視点で中川運河の魅力を発見するまち歩きイベントを12月10日に開催し、26名が参加した。 2 庄内川多世代ふれあい事業 愛知県ボート協会との協働で、庄内川への関心や興味を深めることを目的としたボート教室を7月31日に開催し、18名が参加した。 3 戸田川地域ふれあい事業 戸田川上流域にて「戸田川発見隊」と協働し、地域住民や企業などの参加による大清掃を11月3日に開始し、160名が参加した。 4 荒子川の魅力発見 荒子川の環境美化と魅力発見を目的としたプロギングを3月25日に予定したが、雨天のため中止となった。
実績	中川運河、庄内川、戸田川の魅力発信事業の実施 各1回
総括	各事業について概ね計画どおり実施することができたが、今後も川を生かしたまちづくりを進めていくためには、他の河川をフィールドに事業を実施する等、河川の魅力の掘り起こし等を行っていく必要がある。

1. 令和5年度事業内容等

No.	45	事業名	未来へつなげよう、ものづくりのまち中川	区分	継続
担当課	地域力推進室	関係部署（所）	—		
趣 旨	これからを担う子どもたちに、中川区の特色であるものづくりの魅力を伝えていくことで、中川区に対する誇りを醸成し、愛着を深める機会とする。				
事業予定	・中川区ものづくり見学・体験会の実施 <u>感染対策</u> 区内のものづくり企業などの協力を得て、小・中学生を対象とした工場見学やものづくり体験を実施する。より多くの方々へものづくりの魅力を伝える観点から、区内小学校の社会見学ができるよう、協力企業を紹介するなどの連携を図る。				
計画目標	中川区ものづくり見学・体験会の実施 1回				

2. 令和4年度の実施結果

（評価：☆☆☆）

計画目標	中川区ものづくり見学・体験会の実施 1回
実施内容	区内ものづくり企業2社の協力を得て、8月26日（金）に、小・中学生を対象とした「GoGo 工場！中川区ものづくり見学・体験会」を実施し、25名が参加した。
実績	中川区ものづくり見学・体験会の実施 1回
総括	実施時期を夏休み期間中としたことで、定員を上回る応募があった。また、参加者の満足度も100%と高い数値だった。今後は、費用対効果を考慮し、より多くの方に還元できるような事業となるよう、企画内容を検討する必要がある。

1. 令和5年度事業内容等

No.	46	事業名	まちの歴史文化を伝える・広める	区分	継続
担当課		地域力推進室、支所区民生活課	関係部署（所）	—	
趣 旨		区内の歴史・文化財・街道などの幅広い魅力を積極的に発信し、ふれあいや交流を図るイベントを実施することで、訪れたいまちを目指すとともに、地域で活動する団体と協働することで、区民とともに郷土愛の醸成を図る。			
事業予定		1 郷土の文化を明日に伝える・情報発信事業 感染対策 （1）区内見どころのガイドボランティア活動の支援 「はっけん・たんけん・中川区まちの魅力発信隊」のワークショップを通してガイドのレベルの底上げを行うほか、ガイドボランティアにおいて、「利家ロード～槍の又左と歩む道～」を活用する。 （2）区内見どころマップ類の刷新等検討 犬千代ルート及び各街道マップの内容確認と刷新の検討を行う。 （3）区民まつりにおける区内の魅力発信 区民まつりにおいて、区内の魅力発信と活動紹介及び隊員募集を行う。 （4）区内まち歩きイベントの実施 魅力スポットを巡る、まち歩きイベントを実施する。 2 富田地区のふれあいあるまちづくり 感染対策 富田地区ウォーキング大会 [実施時期] 令和6年3月（仮）			
計画目標		区民まつりにおける区内の魅力発信、区内まち歩きイベント、富田地区ウォーキング大会の実施 各1回			

2. 令和4年度の実施結果

（評価：☆☆☆）

計画目標	区民まつりにおける区内の魅力発信、区内まち歩きイベント、富田地区ウォーキング大会の実施 各1回
実施内容	1 郷土の文化を明日に伝える・情報発信事業 （1）区内見どころのガイドボランティア活動の支援 ワークショップを11回開催し、活動支援を行った。 （2）区内見どころマップ類の刷新等検討 みどころマップの刷新内容の最終確認を行い、改訂を行った。 （3）区民まつりにおける区内の魅力発信 ブースを出展し、区内の魅力発信と活動紹介及び隊員募集を行った。 （4）区内まち歩きイベントの実施 3月5日（日）に荒子界限で実施し、38名が参加した。 2 富田地区のふれあいあるまちづくり 富田地区ウォーキング大会 [実施時期] 令和5年3月21日（火・祝）に実施し、138名が参加した。
実績	区民まつりにおける区内の魅力発信、区内まち歩きイベント、富田地区ウォーキング大会の実施 各1回
総括	ガイドボランティアは、令和3年度に比べて依頼件数が増加した。郷土の文化を明日に伝える・情報発信事業は「はっけん・たんけん・中川区 まちの魅力発信隊」の活動によるところだが、持続的な団体の運営を支援する必要がある。

1. 令和5年度事業内容等

No.	47	事業名	ナッピーによるふれあい・啓発活動	区分	拡充
担当課	地域力推進室	関係部署（所）	—		
趣 旨	中川区マスコットキャラクター「ナッピー」と「ハボン」を活用し、区の取り組みや魅力を効果的にPRしていくとともに、認知度の向上を目指す。				
事業予定	1 「ナッピー」の着ぐるみを活用した啓発活動 感染対策 2 「ナッピー」と「ハボン」のデザインを活用した啓発品の作成 3 「ナッピー」と「ハボン」を活用した広報なごや紙面の作成 4 「ナッピー」と「ハボン」のバックパネルの制作 【新規】 5 「ナッピー」商標登録の出願 【新規】				
計画目標	ナッピーを活用した啓発活動 40回（広報なごや以外の媒体への掲載を含む） ナッピーの認知度 50%				

2. 令和4年度の実施結果

（評価：☆☆☆）

計画目標	ナッピーを活用した啓発活動 40回（広報なごや以外の媒体への掲載を含む） ナッピーの認知度 50%
実施内容	1 「ナッピー」の着ぐるみを活用した啓発活動 キャンペーンやイベント等の機会を捉えて、着ぐるみを活用した啓発活動を行った。（22回使用） 2 「ナッピー」と「ハボン」のデザインを活用した啓発品の作成 交通安全を始めとした啓発品の作成にあたり、キャラクターデザインを活用した。 3 「ナッピー」と「ハボン」を活用した広報なごや紙面の作成 キャラクターの立ち位置を意識した活用を行うことで、キャラクターの区民への浸透を図った。 4 「ナッピー」のLINEスタンプを活用した啓発活動 機会を捉えてLINEスタンプの周知を行い、購入者の使用により啓発に繋げることを狙った。（年間購入者46人） 5 「ナッピー」のぬいぐるみを活用した啓発活動 区内小中学校にぬいぐるみを贈呈し、児童・生徒に向けて啓発を行った。 6 「ナッピー」18歳の選挙啓発活動 ナッピーが18歳になる機をとらえ、統計選挙係と連携し、選挙ポスター作成及び区内高校等での出前授業への参加を行い、選挙啓発に活用した。
実績	ナッピーを活用した啓発活動 42回（広報なごや以外の媒体への掲載を含む） ナッピーの認知度 52%
総括	特に子どもを対象とした場合、効果的な啓発には「ナッピー」の認知度を上げることが重要となり、区役所内の各課はもとより、区内公所、団体においても、キャラクターデザインを活用していただくことが必要である。一方で、今後も「ナッピー」を継続的に活用していくためには、商標権等、権利を整理することが必要である。

1. 令和5年度事業内容等

No.	48	事業名	ベジファーマーの育成	区分	継続
担当課	中川農政課	関係部署(所)	—		
趣 旨	農家の高齢化や後継者不足が区内の農業振興の課題となっていることから、新たな農業の担い手「ベジファーマー※1」を育成するとともに、名古屋市農地バンク制度※2を活用した農地の保全を図る。				
事業予定	1 ベジファーマー育成講座の開催 感染対策 受講希望者を令和4年度実績並みに受け入れるとともに、受講者サービスを維持できるようテキスト内容、講師のサポート体制等を改善し、新たな農業の担い手を育成する。 2 農地バンクへの登録勧奨 制度について講座内で周知し、受講者に借受希望者登録を勧める。農家の方に実体験を話していただき新規就農を身近に感じてもらう機会を提供する。				
計画目標	・ベジファーマー育成講座の受講生 16名 ・講座修了者の農地バンク借受希望登録者数 7名				

※1 ベジファーマー

野菜づくりを通して地産地消と緑豊かなまちづくりに取り組む新たな農業の担い手。

※2 名古屋市農地バンク制度

農家が管理できなくなった農地を市に登録し、一定の条件を満たす希望者に紹介して貸借を支援する制度。

2. 令和4年度の実施結果

(評価：☆☆☆)

計画目標	・ベジファーマー育成講座の受講生 12名 ・講座修了者の農地バンク借受希望登録者数 5名
実施内容	1 ベジファーマー育成講座の開催 感染対策 応募者多数のため、受講人数を募集人数(＝目標人数)より急遽増やした。内容についても、栽培技術だけでなく、農との触れ合いの大切さや農業経営の厳しさといった、農との向き合い方についても学べる講座を開催した。 2 農地バンクへの登録勧奨 制度について講座内で周知し、受講者に借受希望者登録を勧めた。市内で活躍している若手農業者に実体験を話していただき新規就農を身近に感じてもらう機会を提供した。
実績	・ベジファーマー育成講座の受講生 16名 ・講座修了者の農地バンク借受希望登録者数 5名
総括	令和4年度は受講生を大幅に増やしたが、栽培技術などの農作業において講師の指導が十分に行き届かない場面等が散見された。今後は受講生が多少増加しても受講者サービスが維持できるよう運営等を改善していく必要がある。

1. 令和5年度事業内容等

No.	49	事業名	地域の特産農産物のPR	区分	継続
担当課		中川農政課	関係部署(所)	—	
趣 旨		中川区発祥の伝統的な農産物(野崎白菜・名古屋ちりめんハボタン)や、トマト、水耕ネギ・みつばなど地域で栽培が盛んな農産物について、学校や農業者、企業等と連携し広報PRを行い、地元農産物に対する愛着意識の醸成や地産地消の推進を図る。			
事業予定		中川区発祥農産物の紹介チラシの配布や地元研究会の活動支援、及び以下の取組みにより地域の特産農産物のPRを行う。 1 イベントの活用 感染対策 11月に区役所駐車場にて「中川区地産地消フェア2023」を開催するとともに、6・11月に農業文化園で開催される「野菜マルシェ」に参画するなどし、地産地消の取組みを通じた区内農産物のPRを図る。 2 区内学校における中川区発祥農産物の栽培 感染対策 区内小・中・特別支援学校に、授業や部活動等で生徒に栽培してもらい、育てたハボタンの苗の一部を地産地消フェアで参加者に配布する。 農政課による栽培日誌をツイッター等で発信し、学校栽培の参考にしてもらう。			
計画目標		・地産地消フェアの開催(年1回) ・野菜マルシェへの参画(年2回) ・学校栽培 野崎白菜7校 名古屋ちりめんハボタン5校			

2. 令和4年度の実施結果

(評価:☆☆☆)

計画目標	・地産地消フェアの開催 年1回 ・野崎白菜栽培校 5校 ・名古屋ちりめんハボタン栽培校 5校
実施内容	1 農産物の広報 新たに作成した中川区発祥農産物の紹介チラシの作成や地元研究会の活動支援、及び以下2、3の取組みにより地域の特産農産物のPRを実施した。 2 地産地消フェアの開催 感染対策 11月5日(土)に区役所駐車場にて「中川区地産地消フェア2022」を開催したほか、6月25日(土)、11月26日(土)に農業文化園で開催された「野菜マルシェ」に参画するなどし、地産地消の取組みを通じた区内農産物のPRを図った。 3 区内学校における中川区発祥農産物の栽培 感染対策 応募のあった区内小・中・特別支援学校に資材を提供し、授業や部活動等で生徒に栽培してもらい、地元農産物に対する愛着意識の醸成を図った。
実績	・地産地消フェアの開催 年1回 ・野崎白菜栽培校 7校 ・名古屋ちりめんハボタン栽培校 5校
総括	令和4年度は、協力学校でのハボタンの栽培が不調で、11月の中川区地産地消フェアで(学校栽培のハボタンを)来場者に配布するという目標が達成できなかった。良い経験として子供たちの心に残してもらうためにも、栽培が成功するよう、学校に対しこれまで以上のサポート支援が必要である。

1. 令和5年度事業内容等

No.	50	事業名	さまざまなメディアを活用した情報発信	区分	継続
担当課		地域力推進室	関係部署（所）	—	
趣 旨	広報なごや区版をはじめ区公式ウェブサイト、SNS、地域コミュニティ誌などさまざまなメディアを活用し、より多くの方に中川区の魅力を伝えていく。				
事業予定	1 広報なごや区版、区公式ウェブサイト、SNS による情報発信 2 地域コミュニティ誌などのメディアへの積極的な情報提供				
計画目標	広報なごや区版の閲覧率 55% SNS による発信件数 120 件 各メディアへの情報提供 12 件（毎月1件以上）				

2. 令和4年度の実施結果

（評価：☆☆☆）

計画目標	広報なごや区版の閲覧率 55% SNS による発信件数 100 件 各メディアへの情報提供 12 件（毎月1件以上）
実施内容	1 広報なごや区版、区公式ウェブサイト、SNS による情報発信 広報なごや区版の表紙を意識した紙面作りを行うことで、閲覧率の向上を目指した。また、ウェブサイトや SNS による情報発信も積極的に行った。 2 地域コミュニティ誌などのメディアへの積極的な情報提供 地域コミュニティ誌等に対して情報提供を行うことで積極的に情報発信を行った。（年間 40 回掲載） 3 インスタグラムを活用した魅力発信 画像を用いた区の魅力発信にあたり、インスタグラムを積極的に活用した。 4 名古屋市観光コンベンションビューローと連携した魅力発信 イベントの広報にあたり、名古屋コンシェルジュ等の観光情報ツールを活用した。 5 なごや歴史探検アプリなどを活用した魅力発信 犬千代ルート等をなごや歴史探検アプリに掲載しており、活用についてまち歩きイベントで広報を行った。
実績	広報なごや区版の閲覧率 68% SNS による発信件数 217 件 各メディアへの情報提供 44 件
総括	広報なごや区版の閲覧率が令和3年度と比べ上昇したほか、すべての目標について令和3年度を上回った。イベント等が再開されているなか、事業PRのため、さらに積極的な情報発信を行っていく必要がある。また、それぞれの広報媒体の特徴を活かした、効果的な情報発信・魅力発信を今後も継続的に行う必要がある。